

令和5年度 学習評価の在り方

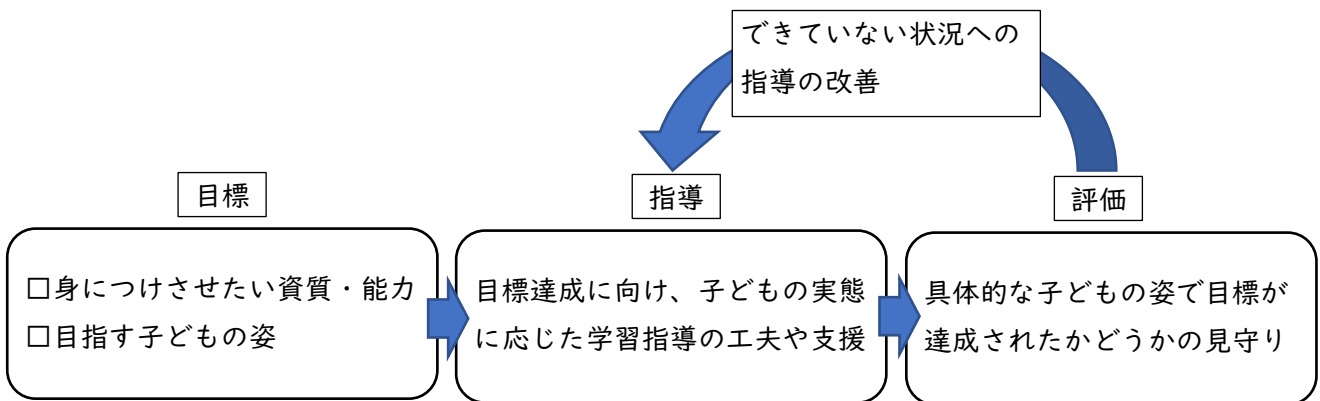
那覇市立金城中学校

はじめに

平成29年度に告示された学習指導要領では「指導と評価の一体化」の必要性について記載され、「指導したことを評価し、評価したことは指導に生かしていく」ことを重視しています。また今回の改訂では、子供に「何ができるようになるのか」という視点に立ち、全教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱に整理され、学習評価が3観点で示されました。そのため、教師は子供に「目標とする資質・能力が身に付いているか」を見取る必要があります。「主体的・対話的で深い学び」の実現により、資質・能力を育成するためにも学習状況を的確に捉え、次の2つの改善に生かすことが求められています。

- (1) 「授業改善」に生かすこと… 期待する子供の姿が見られなかった場合は、教師は目標の実現やつまづきの解消に向けて、次の指導に生かすこと。
- (2) 「学習改善」に生かすこと… 子供が自らの学習を振り返り、次の学習へ生かすこと。

「指導と評価の一体化」のイメージ



1 学習指導要領に示されている「育成を目指す資質・能力の3つの柱」を評価する

育成を目指す資質・能力の3つの柱	評価の3観点	趣 旨
知識及び技能	「知識・技能」	各教科等における学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価するものです。
思考力、判断力、表現力	「思考・判断・表現」	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかどうかを評価します。自分の意見や考え方を表現させたり、思考・判断させたりする等の学習場面を通して評価を行います。
学びに向かう力、人間性等	「主体的に学習に取り組む態度」	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。

2 「観点別評価」について

各教科では、学習指導要領に定める目標をもとに「観点別評価規準」（別紙一覧）を設定し、生徒一人一人の学習が「評価規準」に達成しているかを観点別に評価します。

このときに、「十分満足できる」⇒A、「おおむね満足できる」⇒B、「努力を要する」⇒Cと評価します。特に、「努力を要する」と評価した場合は、「学習の目標」が達成できるよう生徒の学習を支援します。

3 観点別学習状況の評価について

(1) 評価の資料

ワークシート、ノート、学習カード、作品、テスト（実技テスト、単元テストや定期テスト）、レポート、発表内容、生徒観察、自己評価や相互評価など

評価方法	「主体的に学習に取り組む態度」	「思考・判断・表現」	「知識・技能」
①授業の取り組み	○	○	
②ノート、ワークシートやレポート、グループ学習等	○	○	○
③単元テスト等		○	○
④定期テスト		○	○
⑤実技テスト	○		○

※各教科の特性に応じて、評価方法が異なります。

(2) 評価の在り方

各観点は、下記の①及び②などの評価を総合して評価する。

① 評価規準に基づく評価（質的な評価）

学習態度や当該教科への関心・意欲や、ノートやレポート、ワークシート、作品（鑑賞含む）など、数値で評価しにくい（できない）観点については、具体的な評価規準にもとづいて、授業中や授業後に教師が確認しながら評価する。

評価	評価規準	3段階評価から5段階評価につなぐ考え方	
A	十分満足できる	A°	「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
		A	「十分満足できる」状況と判断されるもの
B	おおむね満足できる	B	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
C	努力を要する	C°	「努力を要する」状況と判断されるもの
		C	「一層努力を要する」状況と判断されるもの

② 達成率に応じた評価（量的な評価）

「技能」や「知識・理解」など数値（〇〇点満点）で評価する場合については、その達成状況を下記の達成率で評価する。

	評価	達成率（％）
十分満足できる	A°	90％以上
	A	80％以上
おおむね満足できる	B	50％以上
努力を要する	C°	30％以上
	C	30％未満

※ 令和4年度より那覇市で観点別評価がA°～Cの5段階に統一されたため、達成率については小禄地区3中学校統一したカッティングポイントとなっています。

4 観点別学習状況の評価から評定への総括方法について

(1) 【観点別学習状況の評価】

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの：A°

「十分満足できる」状況と判断されるもの：A

「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B

「努力を要する」状況と判断されるもの：C°

「一層努力を要する」状況と判断されるもの：C

(2) 数 値 A° = 5点 A = 4点 B = 3点 C° = 2点 C = 1点

組み合わせ例	合計値	評定	その規準
A° A° A° A° A° A	15 14	5	「十分満足できると判断されるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの
A° A A A° A° B A A A A° A B	13 13 12 12	4	
A A B A° B B A B B B B B A B C° A B C B B C° B B C B C° C°	11 11 10 9 9 8 8 7 7	3	「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
B C° C C° C° C° B C C C° C° C	6 6 5 5	2	
C° C C C C C	4 3	1	

(3) 評価における定期テストの割合

定期テスト：その他の得点（単元テストや提出物、授業中の評価等）

1 : 2

※課題（授業での取り組みや提出物）に対して一生懸命、粘り強く取り組むことが評価につながります。